

活用型の授業を創る

単元名

今 伝えたいこと

第6学年1組 佐野 育代

—海のいのち—

本実践のポイント

この実践は、優れた叙述を根拠に考える学習方法を活用して、立松和平の作品を読み比べることを通して作者の「いのち」に対する共通性に気付かせ、それを基に「いのち」について自分の考えをまとめる学習を展開するものである。

1 本実践で働かせたい活用力

特に働かせたい活用力

教材文で身に付けた優れた叙述を根拠にして読み取る学習方法を活用し、立松和平の他の作品から登場人物の生き方や考え方を読み取り、作者の「いのち」に対する思いを自分なりに考える力

<思考力>

・作者の「いのち」に対する考えの共通性を考えるために、叙述を根拠に三つの物語を比べたり関連付けたりする力

<判断力>

・作者の「いのち」に対する思いを自分なりに考えるために、二つの物語から出た考えを分析し、吟味する力

<表現力>

・条件に沿ってメッセージ文として作者の生き方をまとめる力

2 単元のデザイン

本単元の目標

- 文学的文章に興味をもち、必要な読書資料を選んで読もうとしている。【関心・意欲・態度】
- 登場人物の心情や場面についての描写等、優れた叙述を味わいながら読み、作者の思いを自分なりにまとめる。【C読むこと(1)ウ】
- 語感・言葉の使い方に対する感覚について関心をもち、適切な言葉を選ぶ。【言語事項 ウ(エ)】

単元について

- 本単元は、登場人物の生き方や考え方を叙述に即して読み取り、作者の「いのち」に対する思いを自分なりにまとめることをねらいとしている。さらに、立松和平の作品を読み比べ共通性について話し合うことで、作者の「いのち」に対する思いを読み深めるとともに、「いのち」に対する自分の考えをさらに深めると考える。
- 本単元では、教材文で習得した読み取る際の視点「優れた叙述を根拠にして各人の生き方を読み取る」を活用して、自分の力で立松和平の他の作品を読み取り、「いのち」に対する思いを探っていく。また、読み取ったことを基に自分の考えをメッセージ文として表現する活動を通して、考えを焦点化させ、読みをより確かなものにする可以考虑。

児童の姿

- 児童は、今まで、文章表現に即して読み取ったことを自分なりにノートにまとめ、それを基に、交流して考えを深める学習を積んできている。叙述を根拠として考えをもつ学習は定着してきており、自作テストでの正解率は83%である。しかし、登場人物の心情等を、直接的な表現からは読み取れても、暗示的・象徴的な表現からは読み取れない児童が多い。
- 児童は、叙述を根拠にして文学的文章の主題を読み取る学習をしてきた。しかし、他の作品での読み取りに活用できると考える児童は少ない。

3 単元構想図（単元計画と評価）

これまでの学習

5年2月「注文の多い料理店」物語を読み、表現の工夫や登場人物の心情の変化について考える。

6年7月「ヒロシマのうた」最も強く語りかけてきたことをまとめる。（読む）

6年10月「宮沢賢治」理想や生き方と作品とをかかわらせて読む。（読む）

学習の流れと評価計画（全12時）

「いのち」について考えよう（2）

- 立松和平の「いのち」をテーマにした作品を紹介し、「いのち」について考え自分へのメッセージ集をつくるという学習のめあてをもとうとしている。

立松和平「いのち」の世界を読む（5）

- 「海のいのち」を読み取ろう（4）
 - 教材文「海のいのち」を読み登場人物の生き方や考え方を読み取って交流し、強く心に残ったことをまとめている。【読①】
 - 語感・言葉の使い方に対する感覚について関心を持ち、適切な言葉を選んでいる。【言①】

立松和平「いのち」の世界を読むⅡ（3） 「山のいのち」「街のいのち」を読み取ろう（2）

- 立松和平の他の作品を読み、読み取ったことを自力でまとめている。
- 立松和平の思いを読み取ろう（1）
 - 「山のいのち」「街のいのち」を読み、立松和平の「いのち」に対する思いを読み取っている。【読①】

本時 10/12

未来の自分へのメッセージ集を書こう（2）

- 立松和平から学んだことを基に、自分へのメッセージ文を書き、考えを深めようとしている。

思考・判断・表現を うながすための手立て

<教材の工夫>

- 立松和平の考える「いのち」をとらえさせるために「街のいのち」「山のいのち」の教材化し比較
- 既習事項（主題のとらえ方）の提示
- 習得事項（優れた叙述を根拠に読み取る）の提示

<発問の工夫>

- 習得した学び（優れた叙述を根拠に読み取る）を活用すれば、二つの物語の「いのち」に対する考えがわかることに気付かせる発問
- 「街のいのち」「山のいのち」そして「海のいのち」には共通する作者の思いがあることを考えさせる発問

<学習形態の工夫>

- 作者の多様な考えを出し合うための全体交流
- 三つの作品の共通性を考えるために、自分の考えを整理したメモをもとに、3人グループでの話し合い活動

<表現のスキル>

- 学習したことをまとめるために書くメッセージ文の書き方の条件の提示
 - 【条件① 二段落構成】
 - 【条件② 字数制限】200字程度

既習事項

読むこと

<文学的文章>

- 強く語りかけてきたことを短い言葉でまとめる。
- 主題

- 文学的文章を読み取る視点

- 設定（場所・登場人物・時）
- 物語のクライマックス
- あらすじ

習得

活用

これからの学習

6年11月「紹介したい この人この人物」必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫する。（読む）

中学校第1学年
様々な種類の文章から必要な情報を集めの読み方を身に付ける。（読む）

4 活用型学習場面の実践 (本時 10/12)

<思考力育成のための手立て>

作者の「いのち」に対する思いの共通点を考えさせるために、三つの物語を比較したり関連付けたりする。

評価方法
整理表
アンケート

「海のいのち」「山のいのち」「街のいのち」の物語を比較したり、関連したりする（比べ読み）ことで、立松和平の「いのち」に対する思いを考えることとした。前時に、教材文「海のいのち」において二つの視点（①作者の「いのち」に対する思いが分かる叙述②叙述に対する自分の考えについて登場人物の心情や生き方）に焦点を当てて読み取らせた。この読み取りの視点を活用して「山のいのち」「街のいのち」を自力で読み取りを行った。読み取りメモを基に、三つの物語の関連について自分の考えを整理表にまとめさせ、作者の「いのち」に対する思いの共通点や相違点を考えさせた。

街のいのち		山のいのち		海のいのち	
「いのち」に対する思いが分かる叙述	「いのち」に対する自分の考え	「いのち」に対する思いが分かる叙述	「いのち」に対する自分の考え	「いのち」に対する思いが分かる叙述	「いのち」に対する自分の考え
「いのち」に対する思いが分かる叙述	「いのち」に対する自分の考え	「いのち」に対する思いが分かる叙述	「いのち」に対する自分の考え	「いのち」に対する思いが分かる叙述	「いのち」に対する自分の考え

作者の思いの共通点や相違点について考えさせ

三つの作品の比較

「いのち」に対する思いの共通点や相違点について考えさせ

整理表

「いのちに対する思いが分かる叙述」を書き出させ、自分の考えの根拠を書かせるとともに、もっとも強く語りかけてきたことを考えさせる。

<読み取りメモ>

<児童が考えた共通点・相違点（整理した図より）>

- ・三つの作品は、自然とかかわっていることが分かる。
- ・「海のいのち」と「山のいのち」のお祖父さんの考え方が似ている。
- ・それぞれが死にかかわっている。
- ・「街のいのち」「海のいのち」は主人公の気持ちの変化がよく分かる。

<判断力育成のための手立て>

「いのち」に対する思いの共通点を分析したり吟味したりさせるために、三人グループでの交流や全体交流を行う。

評価方法
ワークシート
振り返りカード

分析したり吟味したりさせるために、自分の考えを整理した図を基に、二つの交流の場を設定した。初めは、自分の考えを確かするために三人グループで話し合いをした。次に、全体交流することで、作者の「いのち」に対する思いを深めた。交流の際には、叙述を根拠にして話し合うようにした。



<三人グループ交流の様子>

自分の考えを振り返り、整理表の見直しを行う。



<全体交流の様子>

交流の中から、「いのち」についてのキーワードを導き出すことで、作者の思いを考える手がかりとした。また、交流を通して、作者の「いのち」に対する思いが広がり、自分の考えが深まった。

＜児童からでた「いのち」のとらえ＞

- ・いのちのつながり・連鎖
- ・いのちの尊さ、大切さ
- ・感謝

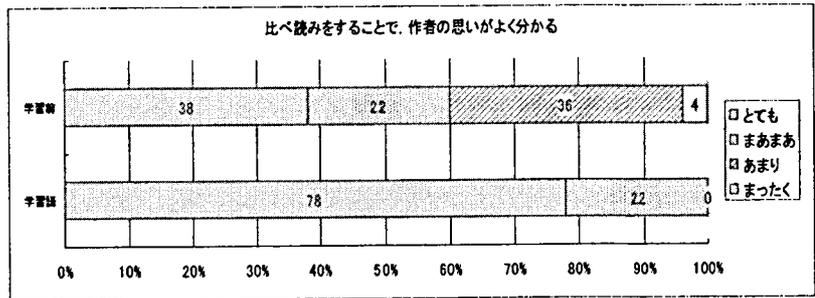


＜授業後の板書＞

5 成果と課題

＜思考力育成に関して＞

整理表によると、92%の児童がそれぞれの物語を関連付け自分の考えを書くことができていた。自分の考えも、叙述を基に書いており、既習事項である読み取りの視点を活用していることが分かった。また、児童



＜比べ読みに関するアンケート 平成 21年 12月 実施＞

アンケートによると、学習後は、100%の児童が比べ読みを肯定的にとらえていた。比べ読みのよさとして、「比べ読みをすることで、一つの作品では分からなかった共通点を見付けることができた。」「作者の伝えたかったことがよく分かった。」「たくさん本を読みことが苦手だったが、作者の伝えたかったことが、違う作品の中にもあることが分かり読書をするのが楽しくなった。」等が挙げられていた。これらのことから、比べ読みをすることは、作品を関連して考えることができ、作者の思いをとらえることに有効であったと言える。

＜判断力育成に関して＞

児童の振り返りカードによると、「グループ交流によって考えを深めることができた。」と書いた児童が92%であった。また、「全体交流によって、考えを深めることができた。」と書いた児童は100%であった。また、「グループ交流では、自分の考えに自信がないとき、友達が根拠を付け足してくれて自信となった。」「全体交流では、自分の思いつかなかった意見を聞くことができ考えを深めることができた。」と書いている。このことから、自分の考えをグループや全体で交流することで、「いのち」に対する作者の思いを深く学ぶことができたと言える。さらに、まとめのワークシートには、交流を通して学んだことを基に、自分の考えを再構築した内容になっているものがあつた。

作品を読むことで、最初の考えと変わった
→トが読書!アホス

＜まとめのワークシート＞